



「モンヂさん」の神通力

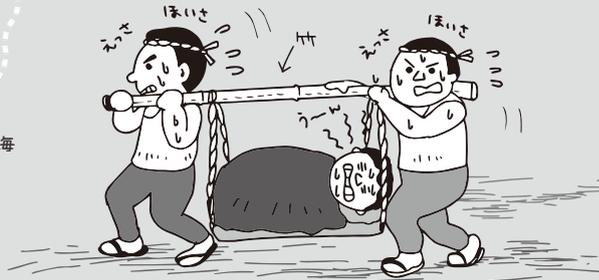
正祐寺の大寺に、大きな水車がありました。農家の人々はその水車で食糧の米や麦をはがして（精米・精麦のこと）いました。その頃は物を運ぶ時は、馬か人間の肩にかついで運んでいました。

粉はもみ（穀物を入れる袋約50キログラム）に入れて馬にくらをつけ、そのくらの両側に一俵ずつ合わせて二俵くりつけて、水車小屋に運んで白米にしています。その他の農家は自分の家で、踏みうすがあって一回に5升位の粉を白に入れ、人の足でスットンストンと時間をかけて白米になるまでついたのです。

その水車の持ち主で、米踏みをしていた人が「モンヂさん」です。いつも神様を拝み神通力のある不思議な力を持っていました。農家で子供が病気になる、「モンヂさん」の所に連れて行ってお願いするのです。

「モンヂさん」は、神様にお祈りして子供の悪い所を手でなでたり、さすったりしてくださるのです。ところが暫くすると子供も笑う程になり、病気も軽くなってくるのです。そして病気の治し方を教えて下さるのです。それで地域の人々は病人が出ると「モンヂさん」の所にいって、色々と病気の治し方を習ったのです。それはそれは沢山の人々が「モンヂさん」に助けもらったのです。





急病の人を運ぶ手段「タゴシ」

昔は重病人が出ると病人をその戸板の上に寝かせてふとん等をかけ、長い棒で2人ないし4人で医者までか
ついで運んで行き治療したのです。それを当時の人は
「タゴシ」が通ったと評判したものです。

昔は病気になる、お金も要るし又多くの人々の、
加勢も求めなければならぬので大変なことでした。
それで病人が出ると「モンヂさん」のところへ頼みに
行って、早めに色々と手当てをして、それ以上悪くな
らない様に教えてもらったのです。

いわば心から病気を治す方法で、今のように薬を沢
山飲んで、治す方法ではなかったのです。だから地域
の人々は「モンヂさん」を信頼して色々と病気や、そ
他のことを頼んだのです。「モンヂさん」の孫になる
「初さん」という人がおられました。「初さん」も神様
を信心されて神通力があり、病人や色々なことについ
て、沢山の人が教えを受けていたようです。

(採話：正祐寺地区 甲山勝代)



村まつり

きれいな好きの祖母が、私
の髪をお湯で湿しながらす
き、赤いリボンで蝶むすび
にし、顔もびかびかにふい
てくれ、絹しぼりの帯を花
結びにしなごら「かわいい
ね」といつて目を細めまし
た。私はこっぼり下駄をは
いて母の手をしっかりとに
ぎって小走りですつて行く。
落ち松葉の小路でした。

白壁の倉が見えるように
なつてからも路は遠かった。
戸口を入るとなつかしい顔
ばかり。おはぐるをつけた
おばあさんが、「早くお上が
り」と手を引いて、広い座
敷におせんが二列並べてあ
る所に連れていってくださ
した。幼くとも母と並んで



一人前のおせんに座つてご
ちそうになり、大勢のお客
さんとのお話が好きでした。
叔父さんの家は庭が広く、
柿やみかんや山桃が何本も
あつて、いとこたちと鈴な
りになつて遊んでいる金柑をい
っぱいちぎつて遊んだことも
あります。大年神社のお宮
では神楽もあり、お店で風
船や手まりも買つてもらつ
てとても嬉しかったもので
す。

(採話：蚊口中地区 三浦千賀)



定期的に発行します
保存してね!

「たかなべ伝・伝 Returns」の発行には、まいづるカード会のご協力を頂いています。

